

連係プレーで同僚救助

鶴見消防署から表彰状



【神奈川】横浜市の鶴見消防署は3月18日、萬運輸(東海林憲彦社長、横浜市鶴見区)の社員5人が、作業中に心肺停止となった40代の同社男性社員を連係プレーで救助したとして、5人と同社を表彰した。
(吉田英行)

救助され復職した男性(左から4人目)と、表彰された5人の社員ら(右端は東海林社長、その左隣は鶴見消防署の山田署長)

適切な措置で元気に復職

萬運輸

2019年9月、整備部門の社員が、車両整備作業中に意識を失っているところを同僚社員が発見。5人の社員が消防への通報、心臓マッサージ、AED(自動体外式除細動器)による蘇生などの救命措置を行った。5人のうち1人は元消防士だったこともあり、適切な初動対応ができた。この結果、男性は後遺症もなく退院し、現在は復職している。

3月18日、鶴見消防署の山田裕之署長、同署駒岡出張所の細田優子所長らが萬運輸本社を訪れ、5人に表彰状を授与した。山田氏は「素早い通報、適切な心臓マッサージなど、5人の連

係で命が救われた」とたたえた。
東海林社長は「心肺停止後の蘇生で後遺症無く復職できたのは、非常にまれなケースと聞いている。男性には3人の子供がいるので、元気に復職できて安心した。人命救助について消防当局から功績として認められたことは、今後の活動の励みになる」と話した。